

2011 年 10 月 3 日
日立三菱水力株式会社

日立三菱水力株式会社が 10 月から営業を開始

－3 社の経営資源を統合して、世界のリーディングポジションをめざす－

株式会社日立製作所、三菱電機株式会社、三菱重工業株式会社の水力発電システム事業の合弁会社である「日立三菱水力株式会社」（以下、日立三菱水力）は、本年 10 月 1 日に発足し、このたび、営業を開始しましたので、お知らせします。

新会社は、3 社が長年培ってきた最先端の技術基盤と経営資源を統合し、販売、エンジニアリングから主要機器の開発・設計、据付・工事、保守まで一貫して行い、最適なソリューションを提供することで、国内のお客様のご期待にお応えするとともに、グローバル市場で勝ち残り、世界のリーディングポジションをめざします。

日立三菱水力は、本社所在地が東京都港区となり、資本金は 20 億円で出資比率は日立製作所が 50%、三菱電機が 30%、三菱重工業が 20% となります。発足時の従業員数は、約 300 人であり、新会社の取締役社長には上佐古 龍洋が就任しました。

新会社では、200～250 億円の年商を見込んでおり、今後、新興国を中心にグローバル事業の拡大を図り、2014 年度には 300 億円規模の売上高を計画しています。

水力発電は、低炭素社会構築に貢献するクリーンな再生可能エネルギーとして、今後も着実な需要が見込まれています。国内では、既存発電設備の更新・予防保全や出力アップに対する需要は底堅く推移する見通しです。海外については、豊富な水資源を活かした大規模な電源開発が進む中華人民共和国、中南米、インド共和国などで引き続き旺盛な需要が見込まれる一方、欧州メーカーとの競合に加え、中国メーカーの海外進出が進んでおり、競争の激化が予想されています。

新会社は、このような市場動向を踏まえ、3 社が保有する開発・設計・エンジニアリング機能を統合し、水力発電システムの技術・技能のさらなる高度化を図っていきます。特に、電力の需給変動への対応性に優れ、今後市場ニーズの高まりが期待される可変速揚水発電システム（※）に注力し、世界トップクラスにある高速・大容量・高落差の揚水発電技術の競争力を一段と強化していきます。さらに、3 社の生産拠点を有機的に連係させるほか、海外拠点も開拓し、最適な生産体制をグローバルに構築していきます。

また、日立製作所、三菱電機、三菱重工業の 3 社は、今後も新会社と緊密に連携し、その事業展開を全面的に支援していきます。

新会社は、再生可能エネルギーである水力発電を通じて、低炭素社会の実現と電力の安定供給に貢献するとともに、お客様のニーズに応える高品質な水力発電システムの製品・技術・サービスを提供し続けてまいります。

新会社の概要

(1) 名 称	日立三菱水力株式会社
(2) 所 在 地	東京都港区芝5丁目29-14
(3) 代 表 者	代表取締役 上佐古 龍洋
(4) 事 業 内 容	1. 水力発電システムの販売・エンジニアリング・据付・工事・保守 2. 水力発電システム用主要機器（水車、発電機等）の開発・設計
(5) 資 本 金	20億円
(6) 決 算 期	3月31日
(7) 出 資 比 率	日立：三菱電機：三菱重工＝50％：30％：20％
(8) 従 業 員 数	約300人

取締役

取締役社長	上佐古 龍洋
取締役	楠田 靖夫
取締役	青木 聡明
取締役	震明 克真
取締役	町野 毅
取締役	山口 寛
取締役（非常勤）	安藤 健司
取締役（非常勤）	小池 誠
取締役（非常勤）	下野 覚
取締役（非常勤）	藤谷 康男
常勤監査役	原田 一男
社外監査役	那須 哲夫
社外監査役	高柳 龍太郎

新会社のロゴマーク（Quest for Nature's Potential）



「自然の水のエネルギーを効率よく活用することを
探求し続ける」という意思を表す

「Quest for Nature's Potential」をコーポレート・
ステートメントとして定め、ロゴマークに入れました。

※ 可変速揚水発電システム：揚水発電システムは、主として地下に造られる発電所と、
その上部と下部に位置する2つの池から構成されます。
上池に貯めた水を下池に落として発電し、下池に貯まった水を余剰電力で上池に再び汲
み揚げることで繰り返し発電出来ます。
特に、可変速揚水発電システムは、瞬時に電力を調整することが可能で、系統安定化に
貢献する大規模な発電・貯蔵システムとして期待されています。

お問い合わせ先

日立三菱水力株式会社 業務部
TEL 03-3769-8001
FAX 03-3769-9819

以 上